

野菜花き 9月下旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 9月20日、24日、25日、27日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は収穫期であった。病害の発生はみられなかったが、ハモグリバエ類の寄生葉が全株でみられた。また、オオタバコガによる被害果がわずかにみられた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は生育期であった。病害では、すすかび病の発生が多かった。虫害ではハモグリバエ類の寄生が全株でみられ、オンシツコナジラミの寄生株率、寄生葉率も平年と比べ高かった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は収穫期であった。べと病の発病株率、発病葉率が平年と比べ高かった。うどんこ病の発病株率、発病葉率は、前回調査時より低かった。また、褐斑病の発生もみられ、平年に比べやや多かった。虫害では、オンシツコナジラミの寄生が平年と比べ多かった。また、ハモグリバエ類の寄生葉がみられたが、少発生であった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は栽培終了であった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、前回同様にアザミウマ類の発生が多かった。また、ハダニ類の寄生がみられ、前回調査時よりも寄生株率、寄生頭数が増加した。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は結球期であった。株腐病の発生がみられ、発病株率は平年よりもやや高かった。虫害ではチョウ目害虫の被害が平年と比べ多かった。

南牧村の巡回ほ場は結球期であった。病害の発生はみられなかったが、ウワバ類等のチョウ目害虫の被害株率が高く、結球葉への食害もわずかではあるが、みられた。

軽井沢町の巡回ほ場は結球期であった。株腐病の発生がみられたが、発生量は少なかった。虫害ではウワバ類等の被害株がみられたが、少発生であった。

御代田町の巡回ほ場は結球期であった。株腐病、黒腐病の発生がみられたが、発生量は少なかった。虫害ではチョウ目害虫の被害株がみられたが、少発生であった。

長野市の巡回ほ場は収穫期であった。株腐病、黒腐病、黒斑病（調査対象外）の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。虫害ではウワバ類等のチョウ目害虫の被害株率が平年と比べやや高かった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は花蕾肥大期であった。黒腐病の発生がみられたが、少発生であった。虫害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は花蕾肥大期であった。黒腐病の発生がみられたが、少発生であった。虫害では、チョウ目害虫の被害株がわずかにみられた。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は収穫期であった。ピシウム腐敗病が少発生、チョウ目害虫の被害株率が高かった。

小諸市の巡回ほ場は収穫期であった。ピシウム腐敗病、白さび病、白斑病、べと病、黒腐病（調査対象外）の発生がみられ、平年と比べ病害の発生が多かった（写真1）。虫害ではチョウ目害虫の被害株がみられたが、少発生であった。

小海町の巡回ほ場では収穫期であった。ピシウム腐敗病の発生がみられ、平年と比べ発病株率がやや高かった。虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は結球期であった。病虫害の発生はみられなかった。



図1 ハクサイ黒腐病（小諸市）

7 レタス

上田市、小諸市、御代田村、飯綱町の巡回ほ場は結球期、南牧村の巡回ほ場は収穫期であった。いずれのほ場でも、すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられ、平年と比べ発病株率が高かった。また、上田市、南牧村では、べと病の発生もみられたが、少発生であった。

いずれの巡回ほ場でも、虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は立茎繁茂期であった。茎枯病は前回調査時よりも発病株率、発病度が高くなった。また、斑点病がわずかにみられた。虫害では、全株にアザミウマ類の寄生がみられた。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ施設栽培）は立茎繁茂期であった。前回調査時と同様に、茎枯病、立枯病、斑点病の発生はみられなかったが、褐斑病の発生が多かった。虫害では、20株中2株にチョウ目害虫（ハスモンヨトウ）の寄生がみられた。

中野市の巡回ほ場（雨よけ施設栽培→被覆資材除去）は立茎繁茂期であった。茎枯病の発生がみられたが、発病株率、発病度は低かった。虫害では、ハダニ類、チョウ目害虫（若齢のため種不明）の寄生がみられ、ハダニ類の寄生株率が高かった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は立茎繁茂期であった。茎枯病の発病株率が高く、斑点病が少発生であった。虫害では、アザミウマ類、チョウ目害虫（若齢のため種不明）の寄生がみられたが、発生量は平年並であった。

9 ながいも

長野市の巡回ほ場では生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかったが、ナガイモコガ（調査対象外）の被害がみられた（図2）。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は収穫期末期であった。アザミウマ類の被害葉がわずかにみられた。



図2 ながいものナガイモコガ（長野市）

【中南信】 巡回日 9月19日、20日、24日、25日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・抑制栽培）では、収穫中であった。葉にコナジラミ類（少発生）の寄生がみられた。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）、松本市の巡回ほ場（施設・抑制栽培）ではいずれも収穫中であった。高森町では、葉にオンシツコナジラミおよびワタヘリクロノメイガ（ウリノメイガ、いずれも少発生）の寄生がみられた。松本市では、花にアザミウマ類、葉にオンシツコナジラミ（いずれも少発生）の寄生がみられた。

3 キャベツ

茅野市および塩尻市の巡回ほ場では収穫期、朝日村の巡回ほ場では結球期であった。茅野市では、外葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられた。塩尻市および朝日村では、軟腐病による株の腐敗（いずれも少発生）がみられたほか、塩尻市では外葉に黒斑細菌病（少発生）の発生もみられた。

4 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場では、出蕾期であった。外葉にコナガ及びウワバ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

5 はくさい

木祖村の巡回ほ場では結球開始前、朝日村の巡回ほ場では収穫期であった。朝日村では、軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。木祖村では、病害虫の発生はみられなかった。

6 レタス

塩尻市片丘の巡回ほ場では、結球期（収穫終了により調査ほ場変更）であった。外葉に斑点細菌病（少発生）がみられた。塩尻市洗馬の巡回ほ場では、収穫期であった。斑点細菌病（中発生）および軟腐病（少発生）の発生がみられた。朝日村の巡回ほ場では、結球期であった。外葉に斑点細菌病（多発生）がみられたほか、結球部にオオタバコガの食入がみられた（図3）。

7 セルリー

原村の巡回ほ場では生育中、松本市の巡回ほ場では生育中（トンネル除去）であった。いずれのほ場でも病害虫の発生はみられなかった。



図3 レタスのオオタバコガ（朝日村）

8 アスパラガス

豊丘村、飯島町、池田町のいずれの巡回ほ場でも、収穫が終了し株養成に移行していた。いずれのほ場でも、茎枯病（少発生・中発生・中発生）の発生およびアザミウマ類（少発生・中発生・多発生）の寄生がみられた。また、豊丘村では依然としてハダニ類が甚発生（高密度）であったほか、池田町では擬葉に斑点病（少発生）、茎内部にハスモンヨトウ（少発生）の寄生がみられた。

9 ねぎ

豊丘村では8.5葉、南箕輪村では収穫中、山形村の巡回ほ場では9.0葉であった。病害では、いずれの巡回ほ場においても、黒斑病が依然として多発状態であった。虫害では、いずれのほ場においても、アザミウマ類（いずれも多発生）、ネギハモグリバエ（いずれも多発生）、ネギコガ（中発生・少発生・少発生）の寄生が前回同様に多く、また、豊丘村では茎葉内部へのハスモンヨトウの寄生（少発生）もみられた（図4）。

10 ながいも

山形村の巡回ほ場では、生育中であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。



図4 ねぎのハスモンヨトウ
（豊丘村）